

あいの風とやま鉄道 平成28年度 利用状況等

平成 29 年 6 月 14 日
あいの風とやま鉄道株

平成28年度(開業3年目・通年営業2年目)の、あいの風とやま鉄道の利用者数は全体で約 1,472 万人(前年比 4.8 万人、0.3%減)、1日当たりでは 40,338 人(前年比20人、0.0%減)でした。

1 一日当たり利用者数

1日当たりでは 40,338 人で通年営業の初年度だった、昨年度と比べると、20人(0.0%)の減少となっているものの、当社の平成28年度事業計画で年間目標とした、1日当たり利用者数 40,200 人は上回る結果となりました。

この結果については、定期外利用者は新幹線の開業効果の減少による若干の影響がみられるものの、利用者数の70%以上を占める定期利用者が雇用状況の改善や利用実態に即した増便・増発により増加しており、全体としては平成27年度とほぼ同様の利用者数を確保できたものと考えています。

利用者の区分別にみると、定期利用者は通勤・通学とも増加しており、前年比1.1%の増加となっている一方で、定期外利用者は合計で3%の減少となっています。

また、定期外利用者の内訳では、ICカード利用者が30%以上の増加となっています。

表1 1日当たり利用者数等

区分	H28	H27	差引	増減比 %
利用者数 (千人)	14,723	14,771	▲48	▲0.3
1日当たり(人/日)	40,338	40,358	▲20	▲0.0
定期利用者	29,556	29,241	315	1.1
通勤	14,141	13,969	171	1.2
通学	15,415	15,272	144	0.9
定期外利用者	10,782	11,117	▲335	▲3.0
乗車券	9,094	9,828	▲734	▲7.5
ICカード	1,688	1,289	399	30.9

2 駅別乗車人員、駅間通過人員等

駅別乗車人員数は、富山駅が 11,864 人、高岡駅が 6,457 人などとなっています。

また、駅間の通過人員数は、富山駅・呉羽駅間が最も多く 16,110 人となっているほか、富山駅をはさんで、東富山・高岡駅間で 1 万人以上となっています。

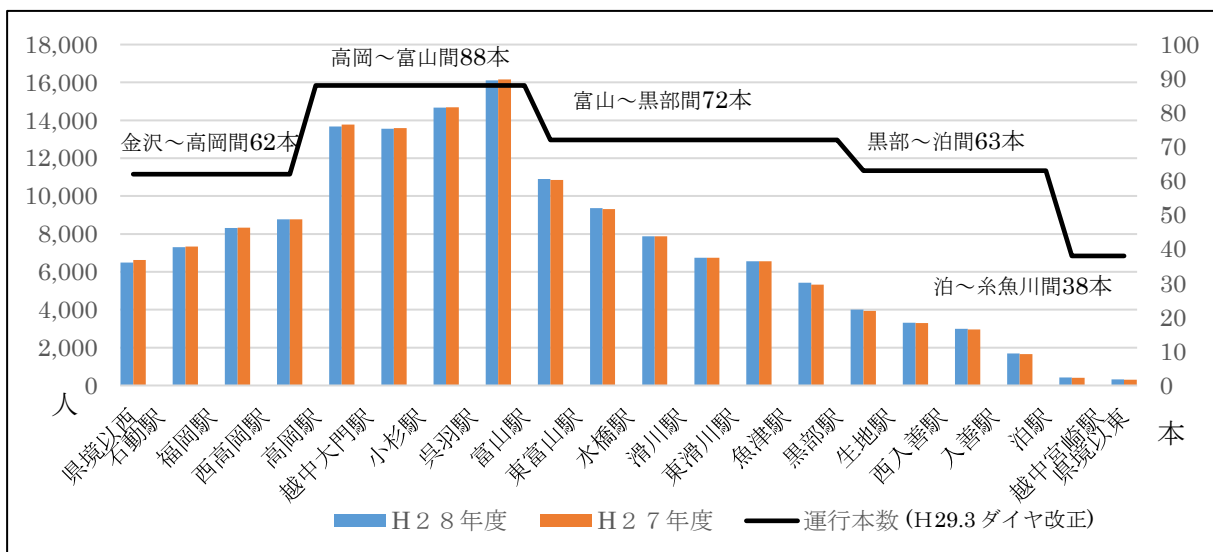
昨年度と比較すると、乗車人員・通過人員数とも、県東部での増加がみられ、県西部で減少が多くみられます。

これは、県東部方面の通勤利用者が増加する一方で、県西部方面では北陸新幹線との乗り継ぎ減による定期外利用者の減少があったためと考えられます。

表2 駅別乗車人員数と駅間通過人員数(1日当たり) (単位 人/日)

区分	H28年度		H27年度		差引	
	乗車人員	通過人員	乗車人員	通過人員	乗車人員	通過人員
県境以西	3,164	6,487	3,232	6,632	▲68	▲145
石動駅	1,682	7,294	1,652	7,331	30	▲37
福岡駅	1,022	8,315	1,041	8,333	▲19	▲18
西高岡駅	589	8,765	597	8,780	▲8	▲15
高岡駅	6,457	13,673	6,529	13,783	▲72	▲110
越中大門駅	911	13,560	903	13,584	8	▲24
小杉駅	3,110	14,670	3,064	14,680	46	▲10
呉羽駅	1,703	16,110	1,734	16,153	▲31	▲43
富山駅	11,864	10,898	11,844	10,855	20	43
東富山駅	1,371	9,363	1,399	9,307	▲28	56
水橋駅	972	7,880	965	7,878	7	2
滑川駅	1,403	6,751	1,368	6,752	35	▲1
東滑川駅	151	6,563	154	6,566	▲3	▲3
魚津駅	2,098	5,432	2,142	5,325	▲44	107
黒部駅	1,305	4,005	1,249	3,944	56	61
生地駅	482	3,308	471	3,290	11	18
西入善駅	232	2,985	229	2,950	3	35
入善駅	867	1,696	865	1,664	2	32
泊駅	727	430	710	412	17	18
越中宮崎駅	68	320	67	311	1	9
県境以東	161	320	145	311	16	9
合計	40,338		40,358		▲20	

図1 駅別乗車人員と駅間通過人員数(1日当たり)



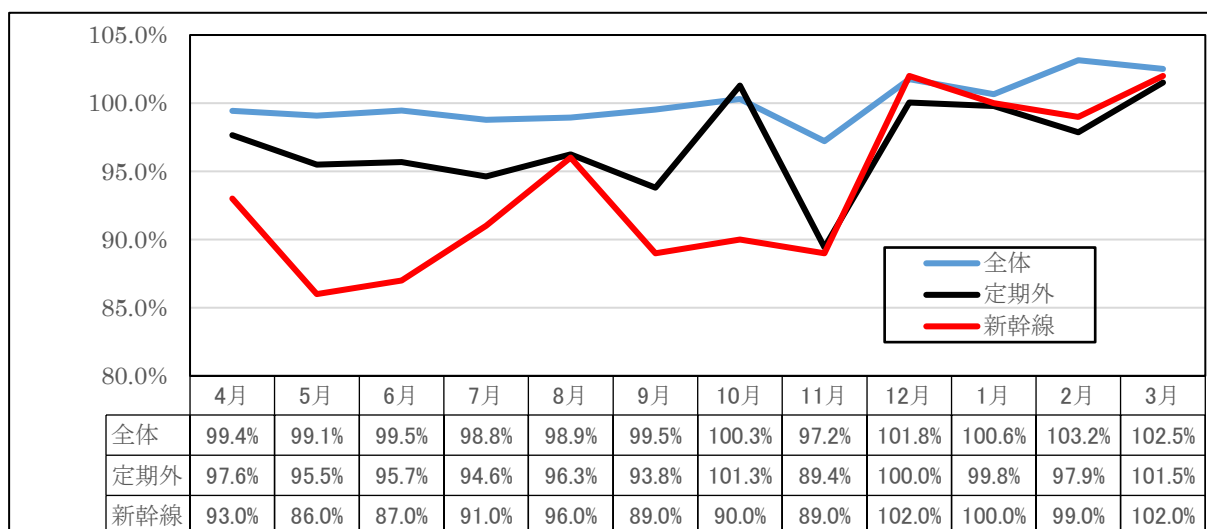
3 輸送人員の増減率

前年度との輸送人員の増減率をみると、年度前半は定期外利用者を中心に、減少がみられたが年度後半に入ってから、前年比を上回る月が多くなっています。

また、北陸新幹線利用者数と定期外利用者の増減率を比べると、ほぼ類似した形になっています。

このことから、当社線の利用者、特に定期外利用者においては新幹線からの乗継客等の利用者数の影響が大きいことが考えられます。

図2 1日当たり輸送人員数の比較(H28/H27)



4 運賃収益

H28年度の運賃収益額は2,921百万円で、昨年度の2,988百万円を67百万円、2.3%下回りました。

利用者の減少数以上の減少となっているのは、利用者単価の高い定期外利用者の減少が大きいことが影響しております。

しかしながら、当社のH28年度事業計画の2,907百万円は上回る結果となっており、定期利用者数の維持により、減少を最小限に止められたものと考えております。

表3 H28運賃収益額等

(単位 千円)

区分		H28	H27	差引	比率 %	
営業収益(税抜)	定期	通勤	854,351	856,595	▲2,244	▲0.3
		通学	439,927	435,429	4,498	1.0
		計	1,294,278	1,292,024	2,254	0.2
	定期外	乗車券類	1,412,167	1,531,157	▲118,991	▲7.8
		ICカード	214,332	164,871	49,462	30.0
		計	1,626,499	1,696,028	▲69,529	▲4.1
計		2,920,777	2,988,052	▲67,275	▲2.3	